

研究・調査報告書

報告書番号	担当
395	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Interpersonal violence exposure and alcohol treatment utilization among medical inpatients with alcohol dependence.</p> <p>アルコール依存症治療のための入院患者の暴力加害経験と依存症治療の利用率の関係</p>	
執筆者	
Rothman EF, Cheng DM, Pedley A, Samet JH, Palfai T, Liebschutz JM, Saitz R.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Subst Abuse Treat. 2008 Jun;34(4):464-70.	
キーワード	
凶暴、暴力加害者、アルコール依存症治療、入院患者	
要 旨	
<p>目的： 本研究の目的はアルコール依存症患者が疾病による入院後アルコール依存症に対する治療を受けるか否かと対人暴力加害の有無との関連を検討することにある。</p> <p>方法： 大規模都市病院に入院したアルコール依存症成人患者 238 人を参加者とした前向きコホート研究のデータを解析した。</p> <p>結果： 参加者の内、対人暴力加害経験者が入院後 1 年間にアルコール依存症に対する治療を受けるオッズ比は対人暴力加害経験のない参加者に比べて 1.6 であった (調整オッズ比: 1.64, 95%信頼区間: 0.92-2.91)。過去 3 ヶ月以内の最近の暴力加害は終生の暴力加害経験と比べて治療を受けるより強い要因にはならなかった。</p> <p>結論： 本研究の結果は対人暴力加害経験歴が疾病による入院後アルコール依存症に対する治療を受ける可能性を高めることを示唆した。従って治療医は対人暴力加害経験の有無を調査して治療を受けるよう紹介することに楽観的なるべきである。さらに、大規模都市病院入院した患者には対人暴力加害が潜在的に高率であることを考慮するとアルコール依存症を治療する専門医はアルコール依存症を発見し暴力加害を起こさなくするような治療法の確立が必要である。</p>	